

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00738

研究課題名(和文) グローバルネットワークによる日本語・継承語の加算的バイリンガル育成に関する研究

研究課題名(英文) Research on how global networking can nurture additive bilingual youth in Japanese and heritage language

研究代表者

落合 知子(Ochiai, Tomoko)

神戸大学・国際人間科学部・准教授

研究者番号：50624938

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：神戸におけるベトナム系コミュニティにおいてベトナム継承語教室の卒業生へのライフストーリー調査を行い、移民1.5世～2世にかけてのベトナム系若者の思春期の継承語学習意欲の低下とその後の回復のメカニズムを探った。
またコロナ禍の期間、沖縄における日系移民への継承語・継承文化支援を観察調査した結果、継承日本語を伝え、日西バイリンガルを輩出しているボリビアサンタクルス市近郊のオキナワ移住地での継承語教育及びコミュニティの在り方に注目し、現地調査及びオンラインでのインタビュー調査を重ね、バイリンガルを育成するコミュニティとボリビア沖縄 横浜の鶴見のネットワークの存在を明らかにし、研究を継続している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

継承語学習動機の低下と高揚のメカニズムを明らかにし、継承語学習者にとって重要なルーツの文化と移住先の間グローバルネットワークの存在を明らかにした。ボリビア沖縄 横浜の鶴見のネットワークと加算的バイリンガル育成のメカニズムについては現在も調査が進行中である。
またこうした知見を当事者・保護者・学校教員・行政関係者に向けての研修講師、招へい講演講師を意識的に勤め、継承語育成のための共通理解の普及に努めた。2023年度以降も研究成果の発表を継続する予定である。

研究成果の概要(英文)：We conducted a life story survey of graduates of Vietnamese heritage language classes in the Vietnamese community in Kobe, and clarified the mechanism of the decline in motivation to learn the heritage language during adolescence and subsequent recovery among Vietnamese youth from the 1.5 to 2 generations of immigrants.
In addition, as a result of an observational study of the support for Japanese immigrants in Okinawa, we conducted a series of interviews, mainly online, to investigate the nature of inherited language education and community in the Okinawan settlement near Santa Cruz, Bolivia, which has been transmitting inherited Japanese and producing Japanese-Spanish bilinguals. Through a series of interviews, the existence of a community that fosters bilingualism and a network between Bolivian Okinawa and Tsurumi, Yokohama, has been revealed, and research is ongoing.

研究分野：教育社会学 異文化間教育 継承語教育

キーワード：継承語教育 母語教育 学習環境デザイン 還流移民 加算的バイリンガル 民族言語的バイタリティ
継承語の資産性・資源性

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

外国につながる子どもたちの継承語教育の必要性については「認知能力の形成のため」「学習思考言語としての日本語の確立のため」「帰国往来のための手段のため」「アイデンティティの確立のため」「人権としての継承語」「親とのコミュニケーションの確立のため」「民族文化の継承のため」「経済資源としての継承語」「教育資源としての継承語」等多くの論点があげられている(真嶋 2010,野津 2010 等)。しかし継承語教育現場では、継承語学習者の多様性や、継承語学習者の思春期における継承語学習動機の低下などが報告され、また日本語教育に力点が置かれた結果、現在の日本では継承語教育に配分される資源は少なく、結果的に日本の教育環境において、継承語と現地語(日本の場合は日本語)の加算的バイリンガルが育つことが難しくなっている。なぜ日本では加算的バイリンガルが育ちにくいのか、いかにして継承語と日本語の加算的バイリンガルの青少年を育てることができるのか。加算的バイリンガル育成のための学習環境デザインはいかにあるべきか、考察することから本研究は始まった。

2. 研究の目的

本研究は ICT を活用し、日本、韓国、ベトナム、ボリビアで複言語能力を育もうとする外国人青少年と支援者によるグローバルネットワークを形成し下記の成果を得ることを目指した。言語コミュニティを可視化することで言語学習を動機付ける学習環境をデザインすること。複言語能力を獲得し、加算的バイリンガルに成長した青少年のライフストーリーを分析し、その成功要因を析出すること。上記の調査・研究活動から得られた知見を外国人青少年当事者・関係者に広く発信すること。

3. 研究の方法

に関しては 2020 年からのコロナ禍により渡航の難しい状況になり、2017-2019 年に実施したベトナムとの交流実践データを分析発表した。またボリビアとのネットワークに関しては吉富が中心になり、コロナ禍の期間は沖縄の日ボ協会との交流を通じてボリビア本国の沖縄県人会との交流を重ねた。2023 年 3 月には落合と吉富がボリビア調査を実現し、関係者インタビュー及び、バイリンガル青年 47 名にアンケート調査を行い今後もオンラインによるインタビュー調査を継続する。また韓国との間では落合が九里歴史倶楽部とつなぎ、オンラインでのバイリンガル青年へのインタビュー調査を行い、それらの成果をまとめた「オンライン交流による学習成果」を分析中である。

に関しては落合が神戸のベトナム系 2 世の若者 5 名へのライフストーリーインタビューを行い、久保田がペルー系保護者へのインタビューと TEM 分析を行った。

に関しては落合が神戸の教員研修や、大阪の在日韓国コミュニティの教員研修で、また吉富が市町村の多文化関連の職員研修での調査の結果を広く発信した。今後も論文書籍などで発信を継続する予定である。

4. 研究成果

1) バイリンガルビデオレターの交換によるベトナム語学習動機への影響についての研究

ベトナムの日本からの帰国児童のための日本語教室と、神戸の公立小学校に設置されたベトナム語継承語教室の間で行われたバイリンガルビデオレターの交換を行い、ベトナム語使用コミュニティの可視化からベトナム語学習動機を高める試みについて国際研究集会「JSPS Core-to-Core Program KOBE SEMINAR 2020」において「Development of Motivation for Heritage Language Learning by Using Global Network-Case Study of Vietnamese Children in Japanese Public Elementary School」として発表した。また神戸大学国際文化学研究科研究推進センター(PROMIS)発行予定の共著(英語)に「Motivating Heritage Language Learning Through Bilingual Video Letters Seeking Changes in Heritage Language Learning Environments for Vietnamese Children」という 1 章を担当して提出したが、コロナ禍の影響もあり、印刷・出版が滞っている。2023 年度出版予定と聞く。

2) 継承語をめぐるグローバルネットワークの構築について

吉富が中心となりボリビアとのネットワークを構築していたが 2020 年度 2021 年度とコロナ禍により海外渡航ができず、その間、沖縄での沖縄 ボリビア間の交流とネットワークについて調査をし、沖縄の県費研修・県費留学、また世界うちなんちゅ大会などで沖縄文化が中南米で力強く発信されていることが判明する。2021 年度で終了するはずだった本プログラムを 1 年延長し、

2022年度末の3月にポリピア調査を敢行し、県費研修・留学生、JICA研修参加者の若者で加算型バイリンガルとして成長している47名の若者にアンケート調査を行いうち19名とのZOOMによるインタビュー調査を現在継続中である。2023年度以降も研究成果の発表を続行していく。また韓国の九里歴史倶楽部とのオンライン交流については落合が中心となりコロナ禍の2021年度に実施。韓国在住の日本人青年と在日コリアンの神戸大学生との国際共修・交流授業を行った。

3) 日本で育つ加算型バイリンガル青年の継承語学習動機の低下と高揚に関する研究

落合が5名の日越加算型バイリンガルを志向するベトナム系の若者を対象にライフストーリーを取り、継承語の思春期における低下と、青年期以降の高揚のメカニズムについて、言語学習動機の統合的志向と成長に伴う統合を目指すコミュニティの変化(幼少期:家族 思春期:学級 青年期:SNS/研究等を通じての広がり)から説明を試みた。また思春期におけるコミュニティ学級におけるマイクロアグレッションとそれを防ぐALLYの育成の必要性について考察した(落合・上原、2022)。

また久保田はペルー系で加算的バイリンガルを育てた保護者のインタビューを行いTEM分析を行った。その成果を2022年の第37回異文化コミュニケーション学会年次大会において「日系ペルー人の子育てに見る母語教育の重要性 複線経路等至性アプローチからー」として発表した。

4) 研究成果の当事者・関係者への発信について

下記の当事者関係者への情報発信を行った。

- * 2020年度夏季真陽小学校教員研修会「ベトナムの子どもたちと多文化共生」(落合)
- * 2020年度第79回日本教育学会(公開シンポジウム「多国籍化する日本の社会と教育」パネリスト)(落合)
- * 2020年度第79回日本教育学会(公開シンポジウム「多国籍化する日本の社会と教育」指定討論者)(吉富)
- * 第11回関西合同青年海外協力隊OV教員研究会～シンポジウム「教育現場の多文化共生」(公開シンポジウムパネリスト)「外国にルーツを持つ子どもたちの母語学習の意義」(落合)
- * JICA関西地域多文化共生セミナー「外国籍児童・生徒の教育・学習サポート」(吉富)
- * トヨタ財団オンラインランチョンセミナースピーカー「COVID-19時代における学びあい：人の移動と多文化社会の未来」(吉富)
- * 2021年多民族共生人権研究集会「地域の多様な子どもたちの学び合い；外国ルーツの子どもたちの視点から」(吉富)
- * 2022年度関西地域ハングル学校教師研修会「学習者の成長に伴う母語・継承語学習動機の低減と高揚」(落合)
- * 国際化市民フォーラム in Tokyo(東京国際交流・協力TOKYO連絡会「文化共生をとらえなおす-自立支援から包摂、社会の一員としての外国人へ」)(吉富)
- * 2022年度米原市人権教育推進協議会きらめき人権講座「多文化共生の地域づくりを考えるー多様性を可能性にー」(吉富)
- * 2022年度池田市ダイバーシティセンター多文化共生セミナー「外国につながる市民への情報発信を考える-双方向のコミュニケーションのプロセスで拓く可能性」(吉富)

(引用文献)

真嶋潤子、沖汐守彦、安野勝美(2010)「大阪府および兵庫県の外国人児童・生徒の母語教育」バイリンガル教育(MHB)研究. 6 pp.112 - 120

野津隆志(2010)「母語教育の研究動向と兵庫県における母語教育の現状」

<http://education-motherlanguage.weebly.com/uploads/1/0/6/9/10693844/research.pdf>
(2023. 5.24)

落合知子・上原夏海(ディン グエン タン ヴィ)(2022)「母語を育む教育環境についての研究：ベトナムルーツの青少年のインタビュー解析から」『教育科学論集 第25号』pp.11-22

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 落合知子 上原夏海(ディン・グエン・タン・ヴィ) | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 母語を育む教育環境についての研究：ベトナムルーツの青少年のインタビュー解析から | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 教育科学論集 | 6. 最初と最後の頁 11 - 27 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81013366 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 吉富志津代 | 4. 巻 11月号 |
| 2. 論文標題 地域の多様な子どもたちの学び合い ～互いに尊重し支え合う共生社会をめざす人権教育の推進～ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 月刊 兵庫教育 | 6. 最初と最後の頁 6 - 9 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 吉富志津代 | 4. 巻 2020年12月117号 |
| 2. 論文標題 『日系南米人受入れから30年-外国人支援政策から多文化共生政策へ-』 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ウェブマガジン『留学交流』 | 6. 最初と最後の頁 13 - 21 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 落合知子 | 4. 巻 107 |
| 2. 論文標題 全員留学の効果と課題ー日本学生支援機構海外留学支援制度への提言 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 留学交流 | 6. 最初と最後の頁 10 - 20 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 1件）

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 吉富志津代 |
| 2. 発表標題 地域の多様な子どもたちの学び合い |
| 3. 学会等名 JICA教員研修（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉富志津代 |
| 2. 発表標題 地域の多様な子どもたちの学び合い ; 外国ルーツの子どもたちの視点から |
| 3. 学会等名 多民族共生人権研究集会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 落合知子 |
| 2. 発表標題 ベトナムの子どもたちと多文化共生 |
| 3. 学会等名 2020年度夏季真陽小学校教員研修会（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 落合知子 |
| 2. 発表標題 神戸における、公立小学校に設置された母語教室の意義 |
| 3. 学会等名 第79回 日本教育学会（公開シンポジウム 「多国籍化する日本の社会と教育」パネリスト）（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 落合知子 |
| 2. 発表標題 外国にルーツを持つ 子どもたちの 母語学習の意義 |
| 3. 学会等名 第11回関西合同青年海外協力隊 OV 教員研究会 ~シンポジウム「教育現場の多文化共生」(公開シンポジウムパネリスト)(招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 落合知子 |
| 2. 発表標題 コロナ禍のオンライン留学・海外研修・フィールド学修プログラムの一年を振り返って |
| 3. 学会等名 神戸大学国際協働事業シンポジウム「オンライン・コミュニケーション教育・研究をふりかえって - 留学・海外研修プログラムの新展開」(招待講演) |
| 4. 発表年 2020年~2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉富志津代 |
| 2. 発表標題 公開シンポジウム 「多国籍化する日本の社会と教育」指定討論者 |
| 3. 学会等名 第79回 日本教育学会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉富志津代 |
| 2. 発表標題 「地域の多様な子ども達との学び合い」 |
| 3. 学会等名 『外国籍児童・生徒の 教育・学習サポート』JICA関西 地域の多文化共生セミナー 2021年2月(招待講演) |
| 4. 発表年 2020年~2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉富志津代 |
| 2. 発表標題 「COVID-19時代における学びあい：人の移動と多文化社会の未来」 |
| 3. 学会等名 トヨタ財団 オンラインランチョンセミナー スピーカー 2021年3月（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年～2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 久保田真弓 |
| 2. 発表標題 ファシリテーター及び総合企画立案 |
| 3. 学会等名 第11回関西合同青年海外協力隊 OV 教員研究会 ～シンポジウム「教育現場の多文化共生」（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Tomoko Ochiai |
| 2. 発表標題 Development of Motivation for Heritage Language Learning by Using Global Network-Case Study of Vietnamese Children in Japanese Public Elementary School |
| 3. 学会等名 JSPS Core-to-Core Program KOBE SEMINAR 2020（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2019年～2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉富志津代 |
| 2. 発表標題 基調講演（新型コロナウイルスのためキャンセル） |
| 3. 学会等名 JICAポリビア主催「日系社会次世代人材育成セミナー」（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年～2020年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

多文化な子どもたちの学び：母語を育む活動から
<https://education-motherlanguage.weebly.com/>
教育科学論集「母語を育む教育環境についての研究：ベトナムルーツの&青少年のインタビュー解析から」
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81013366.pdf>

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|--|---------------------------------------|----|
| 研究 分 担 者 | 久保田 真弓 (KUBOTA MAYUMI) (20268329) | 関西大学・総合情報学部・教授 (34416) | |
| 研究 分 担 者 | 吉富 志津代 (YOSHITOMI SIDUYO) (20608559) | 武庫川女子大学・文学部・教授 (34517) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|